

景 / 観 / 文 / 化

NPO法人 景観デザイン支援機構 けいかん・きこう

<http://www.tda-j.or.jp>

2019-06-01

特集 景観と灯り

目次

- P1
 ■巻頭
 TDA まち歩き 2019《夜景を訪ねる》
 / (写真・文) 稲葉 裕
- P2～3
 ■TDA NEWS
 ライティングとサイネージ
 / 曾根 幸一
 東京都心 / 日比谷・銀座の夜景 -
 LED 照明で大変貌 / 中野 恒明
- ランドスケープ事情
 ホーチミンとベトナム都市の現況と
 夜景 / 国吉 直行
- P4
 ■シリーズ：地域から
 「大垣市」その2 / 西田 拓馬
 ■景観ビジネス最前線 / Y S ポール(株)
 ■ホワイトボード



TDA まち歩き 2019《夜景を訪ねる》

まち歩きが好きでいろいろな団体のまち歩きに参加している。夜のまち歩きでは照明探偵団のまち歩き（光の犯罪者や光の英雄を探せ）や、日本国際照明デザイナーズ協会（IALDJ）とライトフェア（日経新聞社）が主催で東京ナイトツアーにも参加した。今回は東京ミッドタウン日比谷の照明計画に携わったこともあり、場所は日比谷・銀座、日時は2019年5月18日と決まった。また、TDAだけでなく建築士会中央支部と共催することになり、近田玲子さんと一緒に案内役を務めた。

照明探偵団やIALDJではなく、TDAで行う『夜のまち歩き』はどうあるべきか？を考え、タイトルを『大手町、丸の内、有楽町、日比谷、銀座の夜の景観、進化はしたが進歩はしたか。体感してみよう。』と決めた。50人ほどの参加者がいるとのことで、全員を引率し、公道を歩くには無理があると思い、事前に東京都や千代田区、大手町・丸の内・有楽町、銀座に関わる夜間景観ガイドラインやルールはどうなっているのか、解説を行い、過去の周辺地域の夜景写真をご覧いただき、現在の夜間景観は過去と比べて進歩したか、良し悪しの解説は特にせず、参加者の皆さんに今の夜間景観の状況を体感して頂いた。

今回は日比谷、晴海・銀座通り周辺を巡ったが、景観デザイン等に関わっていらっしゃる読者の皆様は、日々、『ポーっと！』夜間景観を見ているのではなく、日々の街中の変化に対し、夜間景観は進歩しているのか？後退しているのか？後退した事例を二度とつくり（計画・設計せず）、進歩した好例を積み重ねて、日本の夜間景観を良くしていきたいものだ。

必要あれば、照明デザイナーにお声掛けください。進歩のお手伝いをいたします。

照明デザイナー / TDA正会員 / IALDJ理事 / (株)フォーライツ代表 稲葉 裕 (いなばゆたか)

銀座・日比谷の夜景から見てきたこと
～TDA まち歩き 2019
《夜景を訪ねる》からの報告～

令和最初のまち歩きテーマは、以前、当機関紙でも取り上げたこともある“夜の景観”。稲葉氏、近田氏の2名の照明デザイナーを講師・案内役として、有楽町、日比谷、銀座の夜の景観を巡った。銀座界隈の2000年代からの照明の変遷、特にLED光源が主体となった2011年からのライティングについてレクチャーを受けた後、LED光源が主体となって作り出す夜の景観を、2時間程度のまち歩きで見てまわった。また、休日にも拘わらず、レクチャー会場をご提供いただいたヨシモトポール(株)様に紙面をかりて謝意を表します。



夜の日比谷を見学する参加者

1 ライティングとサインージ



曾根 幸一

芝浦工業大学名誉教授 / TDA 顧問
環境設計研究室主宰

今宵は照明デザイナーの稲葉裕さんと近田玲子さんの案内で夜景を巡るナイトツアーである。LEDという省エネ電源が普及して操作技術も容易になったというが、銀座通りの街並みを観て歩くのかと思っていたら、日比谷を巡るルートだったから当てが外れた。

ミッドタウンの圧倒されるようなボリュウムも隣り合う日生劇場の光に合わせて見事な演出である。晴海通りの角がなくなって広場の向こうにエルメスが露出しているのには驚いたが、ここあたりからは銀座と呼ぶのだろう。中央通りは明治初年の大火から不燃の煉瓦街（といっても漆喰をかぶせていた。1887）をイギリスの建築家ウオートルスに依頼してできたが、道幅は当時のママではあるまいか？

震災後、渡辺仁の設計でできたのが服部時計店ビルだが、ネオルネッサンスの様式建築は控えめな照明に映えていまでも銀座を象徴する。この中央通りはわが青春の1976年まで都電が走っていたことを考えると隔世の感がある。日本の街並みは棟ごとに建てられるから共同壁がなく、庇あいの隙間ができるがこれをどう始末しているかも観察してみたが、パネルなどを使って巧みに密実さを演出しているのが随所にうかがえたのはさすがに銀座である。

この街はお店の旦那衆のつくる組合組織「デザイン協議会」があり、地区計画「銀座ルール」なるものをつくって中央区と連携してきている。街の表層を飾る部分では、動くものや音を出す演出を自主規制しているらしい。その事例も一つ二つ拝見できたけど、この程度の品格なら許されるのではあるまいか？

残念ながら時間切れでGINZA SIXの手前でツアーは終わったが、この建物もこのルールのもとで造られてきた。「デザイン協議会」の活動はすでに10数年は経っているだろう。イベントもしばしば開かれるから、私も何遍かお邪魔した。倉田直道さんも関係してきたらしいが、この協議会のアドバイザーに、荻原敬、小林博人（慶応大）、中島直人（東大）という都市デザインの専門家が関わっていることも大きいだろう。

道中、芳しくないと思う事例を指摘したら、近田さんからサインージとライティングは違うんですよ、と私の初源的な無知を指摘されたが、なるほどライティングは建築設計のワークと一体のコラボなのだ。サインージの方はまた別の機会か？



銀座4丁目目黒

ランドスケープ事情

「ホーチミンとベトナム都市の現況と夜景」



A ホーチミン市ドンコイ通り、遠くに超高層ビル



B ホーチミン市グエンフエ通りと人民委員会庁舎のライトアップ

私のベトナム都市訪問は、2014年の横浜市立大学まちづくりコース海外まちづくり実習で、学生たちとのホーチミン市調査研究の訪問が最初で、以降、これまで5回の訪問を行っている。ベトナムの都市はバイクに満ち溢れている。最大の課題は交通インフラの整備であるが、都市開発も活発化しつつある。

■ホーチミン

ベトナム最大の南部の商業都市。中心部にはフランス統治時代の19世紀に建造されたサイゴン大教会や市民劇場、郵便局、市人民委員会庁舎、ベントイン市場など様々な公的施設があり、ドンコイ通り周辺には、商業施設やホテルなど、ヨーロッパ古典風、近代建築風の建築物が数多く残っており、フランス都市のような雰囲気も醸し出している。代表的な歴史的建造物は、ヨーロッパのシンボル施設の夜景演出手法でライトアップされ、高質な夜景を生み出している。夜、これらの施設の前面の広場や階段には、多くの市民が集まり、豊かなコミュニティ空間となっている。

ホーチミン市では、歩行者空間整備計画があり、その一つグエンフエ通りは、中央部が大通り公園型広場へ改造整備され、ここでも夕刻以降、多くの市民、観光客が集まる。本年3月の訪問時には、まだ、新年の光のデコレーションが残っていたが、この光は歴史的建造物への上品なライトアップとは異なり、緑、赤など極彩色中心のものであった。グエンフエ通り脇には、超高層ビル、ビテクスコフィナンシャルタワー（265.5m）が登場し

2

東京都心/日比谷・銀座の夜景-LED照明で大変貌 ~これだけの夜間景観コントロール~



中野 恒明

東京建築士会中央支部支部長 / TDA 正会員
(株)アブル総合計画事務所：代表

2019年5月19日(土)のまち歩きはTDA(当機構) / CHAG(東京建築士会中央支部)の共催で初の夜間実施。双方会員、一般参加も含め50名近く、照明デザイナーの近田玲子、稲葉裕両氏の事前解説と案内で大いに盛り上がった。懇親会も37名で交流、特にCHAG参加者からは絶大な評価、これぞTDAの底力。

近田さんからは銀座中央通りのアーケードの復刻(1956/S31)画像から始まり~メタルハライド街路灯(1968/S43)を経て~LED街路灯(2006/H18~)への歴史、そして日比谷・銀座界隈で続々と誕生する新たなビル、そこには多くの照明デザイナーが参画しつつ、新型LEDを用いた調光・調色の時代に突入とのお話。稲葉さんからは照明探偵団時代の経年画像と都や銀座まちづくりでの光環境ガイドラインなど日没まで約1.5時間の熱弁。その後、総勢が街に繰り出し大混雑かと思いきや、さすが東京人、人ごみを掻き分け列が続き、最大の問題は見どころ多く時間切れ、銀座SIXは素通りで懇親会に急いだ始末なり。

さて、凄まじい勢いで進化するLED照明だが、一方で街並みコントロールと言う視点で大いに危惧を抱いた、と言うのが感想である。今から10年前に研究室で明治~大正~昭和初期~後期~平成も銀座8丁の

ファサード変遷図を作成した。ポツ窓から次第に大型窓に、そしてファサード全面にガラスが使用される、そんな流れを予感した。当時、25cmのセットバックと抱き合わせで31m斜線の建築制限を撤廃し、56m高に緩和され、幾つか建替えられるも、ファサードの光放出には節度があった。それが東日本大震災後のLED礼賛時代に突入り、ファサードから面状かつ大量の光が分散され、それは一部が動き出し、多彩な色にも変化する。ライティングなのかサイネージなのか、その区分も難しい。ガイドラインは存在するが、これを審査する学経の経験や知見を超える世界なのではないだろうか。街路灯国際コンペ特定のLEDの光る灯柱は埋没する始末、まさに銀座は電腦街・秋葉原の先をいく街と思いついた。やはり漏れ出す光のコントロールは不可避で、建築単体ごとの審査から複数街区規模の審査へ、そして竣工してから光量調整(調光)可能な仕掛けは不可欠等々、様々なアイデアは浮かぶが、所詮センスの問題をどこまでガイドラインで縛るべきか、そこが課題なのである。



銀座4丁目交差点より南側を望む

今回「街歩き」では、はじめて、短いアンケートを景観文化でのご報告を前提に参加者をお願いした。ご協力いただいた参加者にまずは謝辞を述べたい。

日頃、私達が「街歩き」と称して行っているワークショップは、「景観」という漠然としたものを多くの人と価値を共有するのにかなり優れたしかも有効な方法であると個人的には考えているが、これをもう少し幅広い活動手法にならないかと考えている。その手始めとして参加者の意見を聞こうとアンケートをお願いした。参加者が45名を超えたこともあり、集計の詳細は後日整理してお伝えしたいが、当日直接回収したアンケートを見ても、今回のまちあるきが、様々なシンポジウムにも勝るとも劣らない効果的な活動になっていると感じている。勿論、東京建築士会中央支部との共同開催もこの成功の背景にある。さてその一部を紹介する。

Aさん：日比谷、銀座等地域による特性を感じる事ができた。

Bさん：建築内部の証明と街路灯等との調整の必要性を感じた。

等、街歩きの結果からのご意見や、

Cさん：光にはアクセントが必要であると感じた。

のように照明そのものに関してのご意見。さらに、

Dさん：参加人数が多い時には先頭の方は旗をもって欲しかった。など街歩きの具体的なやり方へのヒントをくださった方もいた。

様々なご意見をいただいた事は本当にありがたい。景観を作り上げるにはより多くの方々に関心を持ってもらい、ある価値観を共有することが重要である事を考えると、このやり方をブラッシュアップしていく事も意味があると考えた。そのヒントがこのアンケートを整理する事で生まれるかも知れない。いずれにしろ次回の街歩きにはこれを活かしたいと思う。

(文責：景観文化編集委員会)

横浜市立大学客員教授 / TDA 正会員 国吉 直行



C ホーチミン市市民劇場



D ホイアンの世界遺産地区とランタン

ている。このビルの近くの地区では、小規模の一般建築群が独特の町並みを形成しているが、一部はすでに解体され、街区再開発が始まっている。個性的な境界が消えてしまう危ない兆候。ホーチミンでは、現在、日本のODA事業による地下鉄建設が2021年開業を目標に進められている。地下鉄起点のベンタイン市場前の駅は、ベルギーの設計チームによるサンクンガーデン方式となる見込み。ベンタイン市場付近では、バス交通を効率的に展開するためのバス専用レーン(クリチバ方式)の整備も目にした。サイゴン川対岸の広大な2区では、トーティエム新都市建設も始まっています。こういった夜景を楽しめるサイゴン川のディナークルーズも体験する価値があると思う。

■北部中部の都市

北部の首都ハノイは、まだ開発が進まず、中心部の旧市街と呼ばれる地区にフランス統治時代からの町並みが息づいており、素朴で落ち着いた魅力を見せている。ベトナム中部地区には、古都フエと、かつての貿易商業都市ホイアンの、二つのユネスコ世界遺産都市がある。中部最大の商業港湾都市ダナンはビーチリゾート開発が活発であるが、ドラゴンブリッジや、新市庁舎の奇抜なデザインが目立つが、フエやホイアンといった歴史都市への入口的都市としての景観上の工夫が欲しい。

変化の真ただ中にあるホーチミンやベトナム各都市では、歴史的資産の保全活用の姿勢も感じられるが、都市景観の未来はどうか興味深い。

「大垣市」その2

風景からはじまるまちづくり



奥の細道結びの地記念館



組み立て式屋台什器

前回に続き大垣市での活動を紹介させていただきます。

現在大垣の中心部ではデジタルファブリケーション機器を活用しDIYで製作された組み立て・分解可能な屋台をはじめとした什器が個人的な欲望から生まれ、店のインテリアであったり、公共スペースを活用したイベントの空間構成に採用されています。そうやってある意味即席的に公共や民間の空きスペースでつくられる風景が、その後のスペース周辺の設備投資につながる状況が生まれてきています。

具体的には大垣市船町にある奥の細道結びの地記念館内のカフェスペースの改装のインテリアとして、組み立て式屋台から派生したカフェカウンターが採用されたこと、本巣市ぬくもりの里のハワイエ部分に新たに設置された市民協働サポートセンターのインテリアに組み立て式のテーブルやスツールが採用されたことが挙げられます。ともに単なるカフェや事務所としての機能を超えた空間になることが求められ、実際に周辺の似たような施設や隣接する広場で行われた試験的なイベントで見られた、スペースの活用風景から想定されるアクティビティをもとにインテリアの設計を行っています。

こうした事例の背景として、昨今のテクノロジーの発達や時代背景から生まれる経済活動をはじめとした日常の在り方の変化と、それに伴う既存のスペースとその利用形態の間のギャップの発生が挙げられるのではないかと感じています。そのような状況下で公共・民間にかかわらず既存のスペースの有効活用のためのリノベーション・新築などの投資による更新のプロセスとして、先述した什器等を活用し、まず実験的・即席的に風景を作り、スペースのポテンシャルやそこに生まれる生産的な状況を試験的に見てみることで、またDIYでの簡易的な空間づくりを利用者・関係者と共有することは、とても有効的な手法になり得るのではないかと考えています。

そんな思考をベースに、今後も大垣ならではの風景からはじまる新しいまちづくりを実践していく予定です！

現在TABのウェブサイト (<https://www.tabjapan.com/>) にて様々な什器やそれを使ってつくられた風景が閲覧可能です。皆様の今後のまちづくり・景観づくりの新たなツールとして、またアイデアソースとして活用していただけたらと思います。

景観ビジネス最前線



納入実績：新川崎駅



歩行者に安全な形状で 疲労強度を向上する 開口部「トツレス」

主な特長

1. 凹凸を無くした構造
2. 歩行者への安全性の配慮
3. スマートな外観を実現
4. 断面欠損を補強し剛性を確保

YS POLE YSポール株式会社
www.yspole.co.jp

〒100-0006 東京都千代田区有楽町1-10-1 有楽町ビル7F TEL: 03-3214-1510

ホワイトボード

「城下町の街づくり講座」—松本都市デザイン学習会編・著—という本の紹介をしたい。多くの広い見識を持つ街の方々から自分の街“松本”とどう向かい合うかを率直に語っている書籍である。何よりも“街の景観”を他人事と考えないスタンスには、松本城を嘗

て買い取った”市川量造（1844～1908）“の遺伝子を感じる。多くの景観に係る専門家に読んでもらいたい書籍であると同時に、本書にも書かれているように、「都市デザインなんか！難しく」と思っている人たちにも是非読んでもらいたい本である。